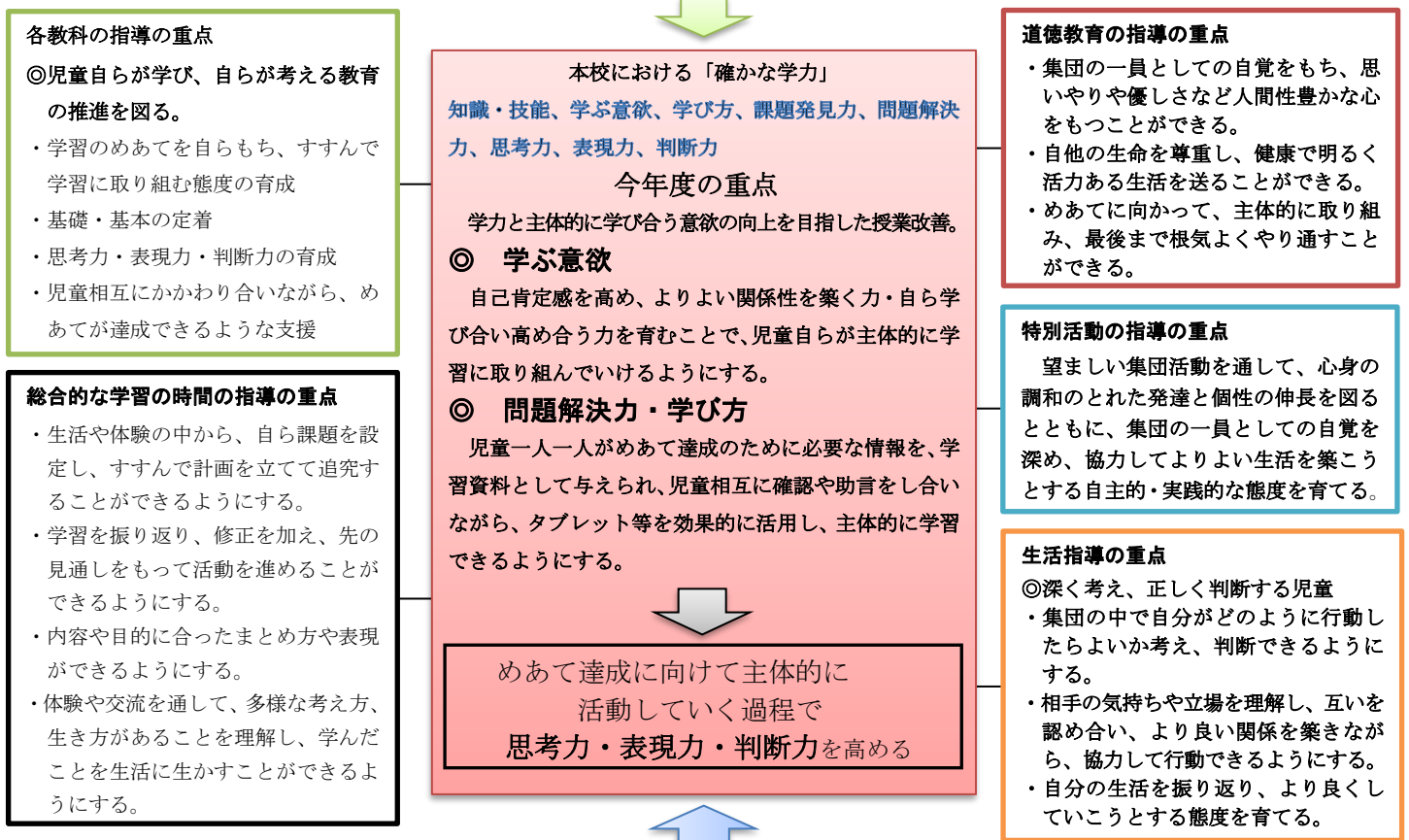


学校経営方針（学力向上に関わる要点）

◎主体的に学び、確かな学力の向上を図る教育の推進

- ・ 学年段階に応じて、学習の基礎・基本を身に付けさせる工夫・積み重ねができるようにする。
- ・ 体験活動を重視し、児童に学習の目的や課題を明確にもたせ、その解決を目指した学習ができるようにする。
- ・ 児童が考え判断し表現することを十分に経験させるとともに、指導者や児童相互で認め合う場を位置付け、協力して問題解決に取り組む。
- ・ ICT（大型提示装置・実物投影機・学習者用端末等）の活用を図る等、児童にとってより分かりやすい授業を目指す。



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・方法の工夫	教育過程編成上の工夫 小中一貫教育の視点	校内における 研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
<p>研究主題 「自ら課題を見つけ、解決しようとする児童の育成」</p> <p>○導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が単元の内容を自分事として「やりたい」「考えたい」と思えるような魅力的な導入 ・ 考える「必然性」を生む。 ・ 考える「必要感」を生む。 <p>○単元後半まで意欲を持続させるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に粘り強く取り組めるようにするための工夫 ・ 感染予防対策を講じた教育活動の工夫 ・ 自分と結び付けられるような工夫 ・ タブレットを活用した学習形態の工夫 	<p>○教員の授業力向上を図るために、月1回の校内研究日を基本とする。また、小中一貫研究会など活用し、9年間を見据え、教育活動を工夫する。</p> <p>○授業中の個別指導に加えて、放課後など授業時間外にも個別指導を行えるよう時間を設定する。</p> <p>○教科担任制を取り入れることで、専門性の高い教科指導の実現を図る。</p> <p>○読書旬間の設定</p> <p>○体育朝会・体育的活動の設定</p>	<p>○全教員が学習指導要領に基づいて、授業を行い、学年を基盤にした授業改善の日常化、研究研修の日常化に取り組む。</p> <p>○小中一貫教育実践校の研究を生かし授業に取り入れる。</p> <p>○日常の授業観察では、指導案を作成して校内で公開し合い、教員が互いに学び合って授業改善に生かす。</p> <p>○放課後など日常的に教員同士で学び合う場を設け、指導力の向上を図る。</p>	<p>○ねらいに則して評価計画を作成し、個に応じた評価を行う。</p> <p>○指導者が適切な支援を行うとともに、児童相互にかかわりをもたせ、自分の取組を振り返らせる。</p> <p>○ノートや学習プリント等を基に、指導者がその時間の活動を評価するとともに、次時へ向けての支援計画を立てる。</p> <p>○タブレットを活用した評価の工夫</p>	<p>○ホームページや学校だよりで日常の授業や研究授業の様子を伝えたり、学習で使用したワークシートに保護者の記入欄を設けたりして、家庭、地域への啓発をしていく。</p> <p>○地域コーディネーターを通じて地域の人材を活用できるようにする。</p> <p>○学校関係者評価を授業改善に生かす。</p>